

「中海の利活用に関するワーキンググループ」の検討状況について

中海会議利活用WG事務局（鳥取県元気づくり総本部）

【ワーキンググループ概要】

趣 旨：関係機関が集まり、ともに未来に向かって中海の豊かな自然の恵みを享受・活用し、継承していくための取組を考え、「利活用アイデア」として提案をまとめる。

構成員：「中海の利活用ワーキンググループ設置要綱」のとおり。（事務局は鳥取県元気づくり総本部広域連携課及び島根県政策企画局政策企画監室。内容により名簿記載以外の部課も適宜参加）

【これまでの開催経過】

〇WG打合せ会 平成22年6月22日

内容：設置の趣旨、参加する機関・部署、検討の方向性等について確認、意見交換。

〇第1回WG 平成22年9月2日

内容：設置要綱を確認。検討の方法等を協議、まずは検討の柱5つを以下のとおり設定。

（テーマ：一体感の醸成“中海でつながる” 水面のスポーツ利用“中海に親しむ遊ぶ”
海藻の利用“中海で循環する” 食文化“中海の恵みをいただく”
環境学習“中海を知る”）

〇第2回WG 平成22年11月8日

内容：現在取り組まれている既存事業等を整理。検討の方法を確認し、テーマ毎にアイデア出しの作業へ。

〇第3回WG 平成23年3月17日

内容：各機関からの利活用アイデア(たたき台)を集約。内容を吟味し、方向性について確認。

〇第4回WG 平成23年6月29日

内容：利活用アイデア（たたき台）について、既存事業・既存団体との関わりや実現可能性、経費面など、個別具体的な内容について検討し、効果・波及度、実現性が高いもの（既に実施中を含む）などをセレクト。

〇第5回WG 平成24年3月14日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。

〇第6回WG 平成24年7月9日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。

〇第7回WG 平成25年3月18日

内容：利活用アイデアの状況及び今後の推進方針等を確認。また、中海利活用WGの今後の進め方について協議。

〇第8回WG 平成25年5月1日

内容：第7回WGにおいて協議した今後の進め方について再協議。WGで提案された利活用アイデアだけでなく、他団体で取組まれている内容も一覧にして会議へ報告することを確認。

〇第9回WG 平成26年7月4日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。

〇第10回WG 平成27年6月26日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。今後のアイデアの取り扱いについて方向性をまとめていくことを確認。

中海の利活用マップ

中海会議 中海利活用WG事務局(鳥取県元気づくり総本部)



中海の利活用アイデア

実施中・検討中のアイデア

- 【湖面湖岸の利用】 …………… ① 中海周遊サイクリングの推進
(中海周遊コースの設定など環境を整備し「サイクリングの聖地」としてイメージアップを図る)
- 【湖面湖岸の利用】 …………… ② 中海周遊「EV車でエコツアー」の推進
(充電インフラの整備等に取り組み安心して走行できるルートを実現、「環境にやさしいまち」をPR)
- 【藻の利活用】 …………… ③ 中海の「藻」の活用
(海藻を回収して産業などへ利用することにより中海の藻の循環システムを構築する)
- 【食文化】 …………… ④ 「(仮)中海エシカルフード」の開発・提供
(中海産品の復権を目指して公共施設等で中海メニューを提供する)
- 【環境教育】 …………… ⑤ ラムサール条約普及啓発の取組
(中海の豊かな自然・環境を守り、育て、次代につなげる取組を進める)
- 【一体感の醸成】 …………… ⑥ ポータルサイトによる情報発信
(ここを見れば、中海宍道湖が「わかる」「保身に参画できる」、情報発信の拠点づくり)
- 【一体感の醸成】 …………… ⑦ 「日本風景街道」の推進
(宍道湖・中海・大山圏域の「日本風景街道」活動を県境を越えて推進する)
- 【一体感の醸成】 …………… ⑧ 中海ワイズユース住民活動の推進
(中海圏域の住民から中海の利活用の提案を公募し、助成等を行うことで取組を支援)

構想段階のアイデア

- ⑨ 「中海憲章(仮称)」の制定
- ⑩ 環日本海国際トライアスロン in NAKAUMI
- ⑪ 環境負荷の軽減行動の指標化 ~ 私たちにできること ~
- ⑫ マリンスポーツ・レクリエーションの拠点づくり
- ⑬ ECOシップコンテスト in NAKAUMI
- ⑭ 中海周遊船の運航支援
- ⑮ 高等教育機関と連携した人材育成

①中海周遊サイクリングの推進

提案主旨

景観や観光資源等に優れた中海周辺を、地元住民から海外の来訪者までがサイクリングで楽しめるよう、周遊コースを提示するなど、豊かな水辺環境を実感できる環境を鳥取・島根両県で一緒につくり、中海が「サイクリングの一大聖地」となることを目指す。（エコな乗り物「自転車」と、水質環境にかかわりの深い「中海」を繋げ、圏域のイメージアップを図る）

提案内容

- 安全で楽しく走れるコースの設定
- コースのマップ化とPR
- 中海を楽しむための空間づくり
- 走りやすい環境づくり
- ギブアップシステムの構築
- 利便性のある環境づくり
- 記念イベントの開催や大規模大会の誘致なども念頭に

取組状況

- ・H22年度 「サイクリングロード整備検討会」（鳥取県組織）を設置
- ・H23年度 「大山中海サイクリングマップ」を試作・公表
「宍道湖・中海サイクリングロード連絡調整会議」（島根県組織）を設置
- ・H24年度 専門家による検討中コースの試走（島根県）



- ・H25年度 コース案について道路管理者・公安委員会等と協議
- ・H26年度 サイクリングロードの環境整備（路面表示等）、サイクリングマップの完成
- ・H27年度 既存のサイクリングイベント（中海ライド）でコースの一部を活用

今後の取組の方向

PR活動等、コースのさらなる利活用を図ることについて、国、両県、関係市が連携して検討。

主な関係主体

鳥取県西部総合事務所（地域振興局、米子県土整備局）
島根県（土木部、政策企画局）
中海沿岸市 ほか

② 中海周遊「EV車でエコツアー」の推進

提案主旨

中海周辺エリアにおいて電気自動車(EV車)の充電施設を整備するなど、中海の水辺環境を満喫しながら安心してレンタルEV車等で走行・周遊できる環境づくりを推進する。

中海の水質という環境問題を身近に持つこの中海圏域で、率先して電気自動車(EV車)の普及促進に取り組み、「環境にやさしいまち」としてPRを図る。

提案内容

- 急速充電器などインフラ整備・・・中海圏域を利用者が安心して走行できるよう、沿岸4市の主要地点に設置
- レンタカー、カーシェアリングによる利用システムの構築・・・各市で公用車として使用しているEV車を、閉庁日に住民や観光客にレンタル等
- 普及啓発・PR・・・中海の水辺環境を満喫しながら周遊できるドライブルートの設定
ホームページ、ブログ等を活用した情報発信



充電の様子(皆生温泉観光センター)

取組状況

- ・EV車(閉庁日貸出公用車)の導入(H24年度) 9台
中海・宍道湖・大山圏域市長会 6台
(米子市2台、境港市1台、松江市2台、安来市1台)
松江市単独 3台
- ・H23.10.15より貸出開始
レンタル実績 278回
(4市計:H23.10.15~27.5末)

- ・急速充電器の設置
中海・宍道湖・大山圏域市長会:4カ所
(皆生温泉観光センター、
境港市役所、松江市役所、道の駅「あらエッサ」)
H25年度 3箇所追加(米子市1、松江市2)
H26年度 2箇所追加(山陰自動車道宍道湖SA上り、下り)
その他:由志園(松江市)、鳥取県西部総合事務所(米子市)等



今後の取組の方向

市長会と両県および関係市で連携を取りながら、取り組みの普及啓発を行う。
ドライブマップの作成
中海・宍道湖・大山圏域市長会にて作成・配布

主な関係主体

中海・宍道湖・大山圏域市長会、
関係行政機関 民間事業者等 ほか

③中海の「藻」の活用

提案主旨

昭和30年代まで肥料や食用加工品として採取されていた海藻を「未活用資源」と捉え、新しい産業へ結びつける。

回収し湖外へ搬出することにより水質浄化につなげるとともに、有機肥料などの原材料として使用することで、中海の「豊富な栄養」を受けて育った農産物を食する、といった水質浄化と産業創出を兼ね備えた資源循環の仕組みを構築する。

提案内容

- 藻の回収……海藻刈りによる栄養塩循環システムのモデル構築、旧加茂川藻刈り体験
- 藻の活用……海藻農法による農業再生プロジェクト
- 活用の普及……藻の回収等住民参加型イベント
- 調査研究……藻の産業利用に係る成分分析、分布・現存量調査、海藻肥料の施用効果検証
- その他……海藻に関する意見交換

取組状況

【海藻刈りによる栄養塩循環システムモデル構築事業

: 両県連携事業】

- ・NPO法人自然再生センター(島根)、海藻農法普及協議会(鳥取)に委託し実施。H23は343トン、H24は295トン、H25は275トン回収し利活用業者へ引き渡し。
- ・H26 補助金制度に事業を改め継続実施。340トン回収。

【海藻農法による農業再生プロジェクト: 鳥取県】

- ・海藻農法導入農家50農家、導入耕地面積40ha以上。野菜市、セミナー・説明会開催。通販サイトの立ち上げ等を実施。
- ・H26は海藻農法普及協議会にて海藻農法によるブランド化の取組を推進。
- ・H27は新嘗祭への献穀や学校給食への使用などを予定。

【藻の回収参加型イベント: 島根県】

- ・H23からは藻刈り体験、水環境学習会、中海の幸の試食会等を実施。H23約30名、H24約50名、H25約70名の参加。
- ・H26からはNPO法人自然再生センターの自主事業として実施。上記取組に加え、海藻肥料で育てたサツマイモの芋ほり体験を実施。約30名参加。



藻刈り風景

【旧加茂川藻刈り体験事業: 鳥取県】

- ・H23.7の「クリーンアップin加茂川2011」に、市民、各種団体等の200名が参加。以後毎年実施。

【調査研究: 両県】

- ・藻の分布・現存量調査、成分分析実施し、両県行政担当者とNPO法人との意見交換を実施。今後も必要に応じて実施。

【海藻肥料の施用効果検証: 鳥取県】

- ・H23、24 白ネギ、トマト、サツマイモへの施用効果を検証
H25～ 水稻で施用効果を検証中

今後の取組の方向

引き続きNPOと両県が連携しながら、肥料化に向けた技術確立や、回収コスト及び製造コストの削減検討、および販路の拡大とブランド力アップを図っていく。

主な関係主体

鳥取県(生活環境部、農林水産部、西部総合事務所)
島根県(環境生活部、農林水産部)
海藻農法普及協議会、NPO法人未来守りネットワーク、
認定NPO法人自然再生センター、中海自然再生協議会 など

④「(仮)中海エシカルフード」の開発・提供

提案主旨

かつて地中海で多く水揚げされ、地域の食文化を形成していた地中海の各種水産物を使ったメニューを開発し、食文化を復活させる。提供(食材・加工品)価格に「中海環境募金」として数%の一定額を上乗せし、NPO活動等への支援金とするなど、環境意識の醸成と、中海産の恵みを循環利用する取り組みとして、中海版『エシカルフード』の展開を目指す。

～エシカル(ethical)とは～ 「倫理的な」「道徳的な」という意味だが、最近は「地球環境や社会に配慮している」という意味で使用。

提案内容

- 特徴的な「中海産品」について情報収集
- 関係する民間、NPO等との意見交換
- 県庁に入居する食堂事業者、学校給食への働きかけ

- 提供施設と提供メニューの決定
- 取り組みのPR(創作料理コンテスト、イベント等での提供)
- 食材への「環境募金」等の検討



取組状況

【中海食材の提供】

- ・H23 島根県庁食堂で中海の食材を使ったメニュー案を策定。
- ・第2回中海会議から、中海食材を使った料理を提供し、試食。(赤貝めし弁当、スズキの昆布締め 等)
- ・H24年大会から「中海OWS」参加者へ、中海食材を使ったアサリ汁等の料理を提供。
- ・境港市の学校給食で、H27年2学期から中海の海藻を肥料にした「海藻米」を提供(市内小中学校約3千食分)。

【中海食材の開発に関連する取組】

○スジアオノリの養殖・加工

- ・松江市本庄小学校の児童等を対象に、NPO法人が主体となってアオノリの収穫、板アオノリ作りなどの体験学習を実施。



○民間事業者による中海食材の加工品販売

- ・松江市内のパン店で中海のオゴノリを練り込んだクッキーを販売。販売額の一部はNPOに寄附され、中海の環境改善等に役立てられる。
- ・道の駅本庄でスジアオノリ入りようかんを販売

○アカガイ(サルボウ)復活への取り組み

- ・島根県が種苗の生産や養殖方法などについて技術的に支援。
 - ・中海漁協が水中にぶら下げる形でのカゴ養殖試験を実施。H25年度から 試験販売。H26年度は2.7tまで増産され、H27年度は5tの生産を目指している。
- 価格は、市価の3倍程度であるが売れ行きは好調。 低コスト化が課題。

○伝統食文化伝承

- ・松江市意東小学校の児童を対象に、NPO法人が主体となって、地元住民の協力のもと、「ゴズの昆布巻き」作りの体験学習を実施。
- ・食文化の伝承を図ることを目的に、調理方法をDVD等に記録保存。

今後の取組の方向

中海水産資源の回復、中海食材の安定供給と提供を図るため、引き続きNPO、両県、関係市との連携を図り、各種取り組みを推進する。

主な関係主体

NPO法人中海再生プロジェクト(鳥取) 認定NPO法人自然再生センター(島根)
鳥取県(元気づくり総本部、西部総合事務所)
島根県(環境生活部、農林水産部、政策企画局)

⑤ラムサール条約普及啓発の取組

提案主旨

鳥取・島根両県で、貴重な財産である中海・宍道湖を守り、賢明に利用(ワイズユース)する意識を醸成するため、地域住民や次世代を担う子どもたちの参加型普及啓発事業を実施する。

提案内容

ラムサール条約登録5周年記念事業(H22)で得た国内外のネットワークのつながりや環境保全の意識が根付くよう、両県が連携して他地域との交流及び環境教育に継続的に取り組んでいく。

○こどもラムサール交流

次世代の湿地保全を担うリーダー育成を目的に、他地域の子どもたちと交流しながら互いの活動を学ぶ。

取組状況

【H26年度】

- 4/4～5 「こどもラムサール交流」(米子水鳥公園に東与賀海岸※のこどもを招聘)
- 7/26～28 「こどもラムサール交流」(東与賀海岸に中海・宍道湖のこどもを派遣)
※佐賀県佐賀市
- 2/28 「両県合同シンポジウム」(米子市福祉保健総合センター)

【H27年度】

- 8/22 「ラムサール条約登録10周年記念・アジアこども交流会」(米子水鳥公園ほか)
 - ・韓国、中国、国内(琵琶湖など)の湿地で活動するこどもたち等との交流
- 11/3 「中海・宍道湖ラムサール条約登録10周年記念シンポジウム」(米子市内)
 - ・活動団体の取組発表、記念講演、こども未来宣言、テーマソング合唱など
- 11/23 「中海・宍道湖ラムサール条約登録10周年記念ラムサールフェア」(松江市内)
 - ・ステージイベント、展示、体験プログラムなど

※このほか、中海周辺で開催されるイベント主催者に対し、イベント名に「ラムサール条約登録10周年記念」と付すなど、普及啓発に注力(中海ライド、中海オープンウォータースイムほか)



今後の取組の方向

- ・ NPO等との連携を進め、引き続き中海・宍道湖の賢明利用(ワイズユース)に継続して取り組む。
- ・ 登録10周年イベントを今後にしかりとつなげていく取組の検討。(交流の継続、テーマソングの活用等)

主な関係主体

鳥取県(生活環境部)
島根県(環境生活部)



⑥ポータルサイトによる情報発信

提案主旨

中海・宍道湖にかかわる環境活動を中心とした行事やイベントなどの情報を集約し、また発信するための拠点として「ポータルサイト」を立ち上げる。

提案内容

○応援団を会員として、中海・宍道湖関連催事の情報集約と発信の拠点とする。

⇒ラムサール条約登録5周年記念事業を契機に、応援団として賛同を得た企業等163社とつながり、更なる広がりを作る。

⇒メール配信サービスを開始し、県民参加の活動の輪を広げ、楽しみ、自然再生につなげる。

(アダプト、海藻堆肥、一斉清掃、アマモ造成、稚魚放流、エコセーリング 等)

→→→ これをみれば、中海の関連情報がわかる、参加できるサイトを目指す

取組状況



・H23.10 12 ポータルサイト「中海・宍道湖情報館」の試験運用
正式運用開始

・現在のコンテンツ

- ①ニュースリリース
- ②イベントカレンダー
- ③中海・宍道湖のご案内(ラムサール条約について、水質と浄化の取り組みなど)
- ④加入団体のご紹介
- ⑤リンク

・H27投稿件数:45件

今後の取組の方向

当ポータルサイトの周知を図るとともに、加入団体を増やし、それに伴う情報量の充実を図る。

主な関係主体

鳥取県(生活環境部)
島根県(環境生活部)

⑦「日本風景街道」の推進

提案主旨

中海・宍道湖・大山圏域における日本風景街道活動「人間文化の原風景～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路～」を県境を越えて推進する。

提案内容

- 中海・宍道湖を囲む「水辺ルート」や、寺社を結ぶ「神仏の通ひ路ルート」などを、「人間文化の原風景～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路」として登録し、NPO等の活動団体が主体となって、地域にある豊かな自然や歴史的資源を道路利用者が体感し楽しむための地域づくり活動を実施。
- 風景街道ルートに案内看板やビュースポットなどの道路環境整備を実施。

取組状況

【H22～25年度】

島根県内の風景街道ルートにルート案内看板や二十社寺案内看板を整備。
道の駅9箇所に、風景街道ルート名大型看板、ルート地図板、PRブースを整備。
道の駅「本庄」近傍、外2箇所にビュースポット(東屋、風景解説板、ベンチなど)を整備。
大山寺付近に二十社寺案内看板1基を追加

【H26年度】

日本風景街道大学しまね校開催(H26.11.7～8)

今後の取組の方向

引き続き、道路環境整備を実施するとともに、整備済のサインや道の駅ブース等を活用し、地域の豊かな自然や歴史的資源を楽しむ地域づくり活動をNPO等活動団体との協働・連携により、観光の振興や、地域の活性化につなげていく。



『人間文化の原風景～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路』

主な関係主体

鳥取県西部総合事務所(米子県土整備局)
島根県(土木部)

⑧ 中海ワイズユース住民活動の推進

提案主旨

中海圏域の住民から、中海の賢明利用企画の提案を公募する。住民自身が、未来志向で楽しい企画を考え、やってみることで、中海への関心や気運を盛り上げる。

提案内容

NPO、住民、各種団体、企業から、中海の利活用の提案を公募し、募集主体が採択の上、助成等を行う事業を実施。

- 自然環境と調和し広く圏域住民が中海の恵みを楽しむものであれば分野を問わない。
- 「自ら実施部門」と「提案部門」を設け、間口を広げる。
 - ① 自ら行う部門・・・提案者が実施
↑ 募集主体が委託又は補助
 - ② 提案部門・・・・募集主体が表彰、実施団体を公募



境港市夕日ヶ丘では住民主体で将来の水辺の利活用について意見交換

取組状況

- ・H24年度は両県NPOの共同体が提案した「中海の魅力ある文化」再発見・体験・創造事業を、鳥取・島根広域連携協働事業として採択し、支援。
- ・H24.6にはこの事業の一つの「中海オープンウォータースイム」が開催され、後援として両県で協力・支援した。
- ・H25年度、H26年度も後援を行うなど両県で協力・支援している。
- ・H26年度から規制緩和の活用を含めた賑わいと活力ある水辺のまちづくりを目指す取組を通じてワイズユース住民活動を推進するため、中海圏域のNPO等へ働きかけ。
- ・境港市夕日ヶ丘ではかわまちづくりを通じた将来の水辺の利活用の可能性を住民主体で意見交換し、気運の向上へつながった。

今後の取組の方向

- ・中海オープンウォータースイムは引き続き後援を行うとともに、その他の提案についても鳥取・島根広域連携協働事業などで支援を実施。
- ・水辺の新しい活用の可能性を創造し、賑わいと活力のある水辺とまちづくりを目指す取組(ミズベリング・プロジェクトなど)を通じて、ワイズユースを促し、住民の活動への参加を推進し、中海発で全国の水辺とつながる活動を展開して行く。
- ・賑わいと活力ある水辺とまちづくりを目指すにあたって、規制緩和を活用した方策を検討する。

主な関係主体

鳥取県(元気づくり総本部、西部総合事務所) 島根県(環境生活部) 国土交通省



その他の利活用アイデア

⑨「中海憲章(仮称)」の制定

中海を取り巻く地域が一体となって一緒に行動していくための共通の言葉「中海憲章(仮称)」を制定する。その理念や指針を実行するイベントの開催や、圏域の小学校、公民館等へ校内、館内への憲章の掲示や関連行事の実施など、活動の契機となるような取組を進める。今後、NPOなどの取り組みを支援しながら、地域が一体となった機運を醸成していく。

⑩環日本海国際トライアスロン in NAKAUMI

「皆生トライアスロン」の姉妹大会として「中海トライアスロン」を創設する。「中海湖岸周遊コース」を設定して、新たな風景(江島架橋、中海大橋、風車、大山、中海等)を感じ、実際に中海を泳ぐことで水質を実感してもらう。道の駅も活用し「中海サイクリングロード」とリンクさせる。地元の盛り上がりが必要。

⑪環境負荷の軽減行動の指標化 ～私たちにできること～

清掃活動、藻の除去、下水道接続などのNPO等団体活動や市民生活行動が、中海の水質にプラス、マイナスの貢献している関係を解り易くするため、数値又は指標化する。学習教材やホームページに反映し、関係性の自覚と水質環境貢献行動へのやりがいを生む。

- (例) 海藻、川藻の水の中からの引き上げ 100kg ⇒ ○○
生活排水が流れる側溝の清掃 100m ⇒○○
下水道に接続 1軒 ⇒○○ 有機農業化 1反 ⇒○○ 等

⑫マリンスポーツ・レクリエーションの拠点づくり

ウインドサーフィン、シーカヤック、ボートなどのマリンスポーツ、釣りなどのレクリエーションエリアとして充実させる。「トレーニング」「参加」「観覧」といった活動が楽しめるエリアにするため、親水空間と設備(休憩スペース、駐車場、水道、トイレ等)を整備することを検討。

⑬ECO シップコンテスト in NAKAUMI

中海周辺には、電気関係事業や高等教育機関、エネルギー施設等、「電気」にまつわる関連事業が集積している。このことから、環境にやさしい「電気」と「水」をテーマとした、中海で利用の多い「小型船」「ボート」を対象とした開発参加型の大会を創設する(「琵琶湖の鳥人間コンテスト」に対抗)。人力発電部門、ソーラー船部門などを設けるなど趣向を凝らす。

⑭中海周遊船の運航支援

中海を両県にまたがって周遊する観光船の運航支援を、周辺自治体で連携して行うことを検討。イベント的な一定時期の限定実施、イベントとのタイアップなどの方法を検討。

⑮高等教育機関と連携した人材育成

大学と行政が連携して、中海に愛着や興味がある人などを対象に、人材育成講座、コンシェルジュ養成講座を開催する。一定期間継続して開催し、修了者には証書や称号など(『中海の達人』『中海案内人』『中海の料理人』など分野に応じて)を授与する。中海に関する「学び」を通して、受講者に生涯学習的な充実感を得ていただくとともに環境への意識を高め、地域への愛着を深めてもらい、環境活動等の場で活躍してもらう。

各種団体において行う中海の利活用

中海会議 中海利活用WG事務局(鳥取県元気づくり総本部)

各種団体において、楽しく遊ぶ、スポーツ、観光など、中海を活用した様々な取組が行われている。

- 環境を考える自然学習
- 中海の食材の復活を目指す取組
- 中海での水上スポーツ
- 中海圏域の一体感を目指したイベント

区分	場所	内容	実行者
環境・学習	中海・宍道湖	中海・宍道湖子ども探検クルーズ・・・夏休み期間中(計3回) 小学生対象:湖の自然や水質について実験を交えて学ぶクルージング	中海・宍道湖・大山圏域市長会
	中海・米子市旗ヶ崎(米子食品会館)	中海体験クルージング・中海環境フェア・・・H27.8.22 ヨット・クルーザーによる中海周遊と同時に、中海の生き物、環境について展示見学	NPO法人 中海再生プロジェクト 中海体験クルージング実行委員会
	米子市旗ヶ崎(米子食品会館)	中海ポスター、中海環境標語コンクール・・・H27.8.22 中海に関するメッセージ等	NPO法人 中海再生プロジェクト
	境港市	アマモ場の保全・再生事業・・・H27.6.20など アマモ種子採取イベント、アマモ・コアモ勉強会、アマモ移植イベント	NPO法人 未来守りネットワーク
	松江市本庄工区	中海海開き～きれいになった中海で泳がいや～・・・H27.7.18 海水浴	NPO法人 未来守りネットワーク
	境港市竹内団地	中海産海藻肥料による農業改革セミナー・・・H27.2.28 海藻肥料の現状と今後の展開についての講演	海藻農法普及協議会
	米子市児童文化センター及び湊山公園	環境学習実験 湊山公園(日本庭園)の池の湖底こうんを実施 ・・・H27.7.11他(計2回)	湖底こうん隊
	宍道湖・中海の親水護岸	宍道湖・中海の環境を五感でチェック 県民による五感(見る・聞く・触れる・嗅ぐ・味わう)を用いた湖沼環境のモニター評価	鳥取県・島根県
食	島根大学白濁サロン	中海・宍道湖の食を広めよう会・・・H26.10.24他(計6回) 各回15～20名参加:中海産の食材(魚介類等)を調理し試食	認定NPO法人自然再生センター
	松江市パン製造販売店	中海産オゴノリ入りクッキーの販売・・・H26.12月～(毎週水曜日に製造) クッキーの販売を通じて中海の環境改善について意識啓発	認定NPO法人自然再生センター パン製造販売店「空」
	松江市江島港、八束町波入	中海でオゴノリ採り&サツマイモ掘り・・・H26.10.23 小学生がオゴノリ採りと海藻肥料を使って栽培しているサツマイモを収穫	認定NPO法人自然再生センター
スポーツ	中海 ライドコース	中海一周サイクリング大会(中海ライド)・・・H27.6.21 参加者360名程度:末次公園(松江市)発着	松江輪栄協同組合
	境港市中浜港	山陰マスターズレガッタ、境港ボートマラソン・・・H27.5.24	境港ボート協会
	境水道	境港ボートレース・・・H27.8.2	境港ボート協会
	松江市美保関町万原特設ボートコース	中海レガッタ・・・H27.9月～10月(予定)	境港ボート協会
	境水道	第26回境港ペーロン大会・・・H27.8.2	境港ペーロン協会
	境港市中浜港	第11回こどもペーロン大会・・・H27.5.6	境港市ライオンズクラブ
	米子湾 米子市湊山公園	ラムサール条約登録10周年記念 中海オープンウォータースイム2015・・・H27.6.28	NPO法人 中海再生プロジェクト
	米子市錦海ボートコース	第47回米子市民レガッタ・・・H27.7.12	米子市教育委員会
	安来市中海湖岸	第11回なかうみマラソン全国大会・・・H27.11.1	安来市
イベント	米子市、松江市	中海夕暮れコンサート・・・H27.5.30他(計8回) 中海の夕暮れを活用したイベント。5月から9月まで複数回開催	NPO法人 中海再生プロジェクト